

緑のしるべ

～冬号～

令和3年12月

茨城県県南農林事務所
 稲敷地域農業改良普及センター
 稲敷市江戸崎甲541(稲敷合同庁舎内)
 TEL 029(892)2934
 FAX 029(892)6684

大規模稲作経営に向けた農地集積・集約化の取組



「茨城モデル水稲メガファーム育成事業」により、稲敷市東地区において100ha以上の農地が担い手に集積されましたが、ICTの導入など、作業効率の向上には農地集約が重要となります。そこで、普及センターが声掛けを行い、担い手同士が農地集約の意見交換できる場を設定し、令和2年度より話し合いを始めました。(写真小)

本年度の農地集約に向けた取組みとして、6月16日、稲敷市役所において、担い手及び関係機関30名を参集して「水田農業確立研修会」を開催しました。公益社団法人埼玉県農林公社のアドバイザーを講師に迎え、「担い手への農地集積・集約化の取組事例について」と題し、講演をいただきました。講師からは、埼玉県内でも農地集約推進活動の集積実績の高い地域における事例として、推進エリアの選定・推進上の留意点、地区説明会の進め方の紹介がありました。

講演後には意見交換が行われ、農地集積・集約を進めるうえでの担い手の役割や対象地区の選定など、具体的な質問が多く出され、各市町・農業委員会の担当者、担い手生産者にとっては参考となる研修会となりました。(写真大)

将来は少数の大規模経営体が多く農地を担っていくことが予想されるため、普及センターでは引き続き関係機関等と連携し、意見交換会等の設定や情報提供を行うことにより、農地集積・集約化を支援していきます。

令和3年産米を振り返る

【生育と気象について】

水稻の育苗期である4月上旬の気温が高く、育苗はおおむね順調に進みました。水稻の生育期間である5月～8月の日照時間は7月上旬など局所的に短い時期はみられましたが、平年並～長く推移しました。そのため水稻全般としては早生品種を中心に多収傾向でした。しかしながら7月上旬の低温と日照不足のため、いもち病が発生しやすい好適条件となる日があり、早生、中生品種で葉いもちの病害が散見された圃場がありました。8月中旬の低温と日照不足は8月上旬に出穂した中生品種に影響を及ぼし、穂いもち病の発生、徒長気味の生育になりました。9月上旬も日照時間が短い日が続いたため、中生品種では登熟不良となりました。

図：アメダスデータ(龍ヶ崎地点; 平年値は H28～ R2の平均)



【収量・品質等について】

出穂期はあきたこまちで平年より2日早く、コシヒカリは平年±1日となりました。成熟期はあきたこまちで平年並、コシヒカリで1～5日遅れました。あきたこまちでは、平年より一穂粒数は少なくなりましたが、穂数は多く、登熟歩合は高く、千粒重は重くなったため収量は615kg/10a(平年比103%)と平年より多くなりました。コシヒカリでは穂数や一穂粒数はやや少なく、登熟歩合は平年並になりましたが、千粒重は重かったため、平均収量は582kg/10a(平年比106～127%)と多収になりました。一方で、登熟不良から乳白米の発生がみられました。

本年はいもち病や紋枯病、イネカメムシが発生し、一部圃場では収量等に影響したとみられます。病害虫は年によって発生程度が異なります。茨城県病害虫防除所から出されている病害虫発生予察情報等を利用し、適時防除に努めましょう。(茨城県病害虫防除所 病害虫発生予察情報 URL <https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou/yosatsujoho/yosatsujoho.html>)

表：令和3年度米の生育及び収量

品種	場所	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
あきた こまち	稲敷市 本年	4/24	7/14	8/23	86	18.6	448	78	86	21.3	615
	下須田 平年	4/29	7/16	8/23	93	18.6	403	87	82	21.1	596
コシ ヒカリ	稲敷市 本年	5/1	7/29	9/10	88	19.2	403	77	70	21.4	590
	浮島 平年	5/5	7/28	9/5	93	19.7	435	82	66	20.9	519
	美浦村 本年	5/8	8/2	9/8	97	20.1	404	95	69	21.8	648
	木原 平年	5/9	8/3	9/9	91	18.5	405	82	72	21.1	508
	龍ヶ崎 本年	5/22	8/5	9/15	97	18.1	415	83	56	22.4	508
	長峰町 平年	5/14	8/4	9/11	101	19.4	444	86	57	21.7	477

■ 阿見町のかんしょの取り組み ■

阿見町において地元生産者の基本技術の底上げを図るため、かんしょセミナーと題し、5月14日に「半自動定植機実演研修会」、8月4日に「農業用ドローン農薬散布研修会」を開催しました。また、今年度から参入した農業法人を交えて9月28日に「収穫作業現地研修会」を開催しました。いずれも活発な技術情報等の交換ができ、有意義な研修会となりました。阿見町のかんしょ作付面積は令和3年産2,145aから令和4年産2,765aと拡大の見込みです。

普及センターでは今後も研修会を企画・開催し栽培意欲の向上に繋げ、産地形成を推進していきます。



収穫作業現地研修会の様子

【サツマイモ基腐病の防除対策について】

本病は本年6月に本県でも初発が確認され、全国的に発生が拡大しています。糸状菌（カビ）により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ等が伝染源となります。収穫したイモは見かけ上健全でも貯蔵中に症状が現れることがあります。一度発生すると防除が困難で被害拡大の恐れがあります。侵入防止と早期発見に努めましょう。

右写真のような疑わしい症状が見られたら、当普及センターまで連絡をお願いします。



イモのなり首側からの変色や腐敗、萌芽

出典：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（O1020C）令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138589.html

■ 江戸崎かぼちゃ産地の若手生産者育成 ～稲敷市地域おこし協力隊制度紹介～ ■



かぼちゃ栽培研修中の川坂さん

全国的にも知名度の高い江戸崎かぼちゃ産地では、年々高齢化に伴う生産者数の減少が問題となっています。そこで JA 稲敷江戸崎南瓜部会では令和2年より稲敷市の地域おこし協力隊制度と連携し、研修生を受け入れ、独立就農につなげる取り組みを始めています。

京都府出身の川坂さんは、令和2年10月より地域おこし協力隊として、部会員の圃場にて研修を開始しました。約1年間、部会員の指導のもとでかぼちゃ栽培の基礎を学んだ後、現在は約30aの圃場でかぼちゃを実際に栽培する実地研修を行っています。近くの部会員が栽培管理や病害虫防除などについて定期的にアドバイスするなど、部会全体で川坂さんのサポートをしています。

地域おこし協力隊の任期は3年のため川坂さんの研修はまだ続きますが、令和3年も新たに1名を研修生として受け入れており、今後も次世代を担うかぼちゃ若手生産者が増えていき、部会の中核を担う生産者として成長されることが期待されます。

■ 「あみ食ラボ」加工研修会を開催 ■

阿見町の加工研究会「あみ食ラボ」では、地場農産物を活用した加工品の開発及び販売に取り組んでいます。会員は阿見町産農産物のPRや自身の販売力強化及び売上向上のため、5月25日に加工研修会を開催しました。

研修会では、阿見町産のかんしょや大豆を題材に、「いもあめ」、「きなこあめ」、「みるくくずもち」を試作しました。「いもあめ」の試作では、すりおろしたかんしょを加熱して糊化状に変化する過程を確認しました。「きなこあめ」、「みるくくずもち」の試作では、きなこの香りを出すために大豆を炒ることや、どのような加工品に活かせるのかについて検討しました。

「あみ食ラボ」では、今後も加工研修会を通じて、地場農産物の利活用方法の検討や消費者に喜ばれる加工品開発に取り組んでいきます。



加工研修会の様子

令和3年度新規就農者研修会を開催

7月6日(火)、就農しておおむね1～3年目の新規就農者を対象とした「第1回新規就農者研修会」を開催しました。本研修会は、新規就農者の農業経営改善を目的に、年3回開催しています。

今回は、「農業経営改善に向けた取り組みについて」と題し、株式会社農業生産法人田仲農場の田仲氏(河内町、青年農業士)より、雇用による生産体制の整備やPDCAサイクル等の新規就農者が心がけるべきことについて講話を頂きました。

また、就農支援アドバイザーによる農業経営相談会を行い、受講者達は、労務管理や栽培技術、農業の使用方法など、農業のベテランであるアドバイザーに積極的に質問していました。

当普及センターでは、今後も新規就農者が安定した農業経営を行えるよう支援していきます。



雑草イネが発生しています！

稲敷地域で発生している雑草イネ



稲敷地域において、複数種類の雑草イネの発生が確認されています。

雑草イネは水稲用の除草剤が効かないため、水稲栽培において非常に防除が困難な雑草で、発生初期の対策が重要です。

玄米に赤米が混入していた場合や、圃場で籾が落ちた穂を確認した場合は、早めに普及センターにご相談ください。



圃場で籾が落ちた雑草イネ

農業三士新規認定者紹介

女性農業士

農業経営と農家生活の向上に意欲的に取り組み、担い手育成や地域農業振興で活動する女性農業者を知事が認定するものです。今年度は1名の方が新たに認定されました。



村野 容子 さん (阿見町 露地野菜)

圃場がある稲敷市でレンコンを生産しています。JA稲敷蓮根部浮島支部に所属し、特別栽培農産物認証にも取り組み、品質向上に努めています。

青年農業士

県内の20～30代の農業経営者で、地域農業の中核的な担い手として、知事が認定するものです。今年度は2名の方が認定されました。



山田 和生 さん (稲敷市 露地野菜)

稲敷市でレンコンを生産しています。特別栽培農産物認証に取り組み、高品質なレンコン生産と環境に配慮した持続可能な農業経営に努めています。



長沼 雅之 さん (牛久市 果樹)

牛久市の観光果樹園「長沼りんご園」の経営主で、リンゴとブルーベリーを生産しています。加工品販売では、商品の充実を図ることで消費者の要望に応える経営に努めています。

退任者の紹介

～長い間お疲れ様でした～

女性農業士：黒澤 文江 さん (稲敷市)

青年農業士：四ツ谷 和之 さん (稲敷市) 坂部 正樹 さん (美浦村)